



# 橋梁通信

2022年(令和4年)8月15日(月)

発行所 株式会社橋梁通信社  
〒101-0051 東京都千代田区  
神田神保町1-64 神保町ビル  
電話 03(6715)7234 FAX 03(3518)2476  
info@a-kyoryo.com  
http://a-kyoryo.com  
インスタ(a.kyoryo)始めました



赤目立2号橋  
(クラタ・テクノシステム提供)

特殊建築材料の販売などを手掛けるクラタ・テクノシステム(東京都練馬区、倉田公男社長)のシリコーン100%樹脂塗料「バッファークォート」が、このほどNET

ISに登録された(KT-220094-A)。首都高速道路会社の新技術サイトでも審査を経て公表されている。この塗料は建築分野で40年以上の実績を持っており、今

## シリコーン100%樹脂塗料「バッファークォート」 建築で40年以上の実績 橋梁補修へ販売を本格化

後、鋼橋塗替えなど橋梁の補修市場への販売を本格化する。

施工手順は、素地調整程度3種で浮きさびや、異物を除去した後、この塗料をローラーや刷毛で2-3回塗布する。大幅な工程短縮が可能だ。膜厚は、被塗物の材質に応じて対応できるという。バッファークォートは2種類あり、そのうちNS

製品の特徴は、  
①シリコーン100%樹脂のため、塗膜の伸び率が300-500%で、母材の伸縮に追従する線膨張による塗膜はく離が生じにくい

②1液型で材料混合の手間が不要  
③ガス透過性があり、水蒸気を通す  
④有機溶剤を含んでいない  
⑤成膜後は低温のマイナス50度-高温の200度の範囲で塗膜変化が無いため、冬季施工も可能などが挙げられる。

すでに、北海道恵庭市の漁川水管橋(12年)、福島県郡山市の赤目立2号橋(20年)などで使われた。  
同社の倉田公一取締役営業本部長は本紙の取材に、「自治体など道路管理者の予算が限られる中、まずは特に劣化が著しい箇所や、プラストによる素地調整が困難な部位をターゲットに展開していきたい」と語った。

東北大学の庄子哲雄名誉教授は、千葉県南房総市沿岸部の漁協養殖場建屋H鋼柱にバッファークォートのプロトタイプを塗装し、40年経過後も外観が健全な状況を調査。その詳細を日本防錆技術協会「防錆管理」6月号に「バッファークォートによる素地調整が困難な部位、さびが抑制」と結論付けて報告した。

### 横丁

藤子不二雄Aさんの生地・富山県氷見市には、おなじみキャラクタに彩られた「た」という高校時代の決意のセリフは、2ページに及ぶ大きな橋の絵に添えられている★初日は、藤子さんは小学5年、玉音放送や米軍進駐を話題にする友人たちに、「アメリカ軍はまんがを描かせてくれるか?」と聞いたのだった。(写真8面)